



第4学年 「変わり方調べ」

高橋 弓香子 教諭

「テーブルが増えればいすも増える」という関数の場面を用いて、まずは比例関係 ($y=ax$) を見だし、次に一次関数の関係 ($y=ax+b$) を見いだす場面を設定しました。表からきまりを見つけ、それを式化へとつなげていく過程で、その文脈を子どもたちとどのように描いていくかということに焦点を当てた提案授業でした。



①「表の見方を共有し式化につなげる場面」、②「式を読む活動を通して規則性を考察する場面」における指導者の手立てについて、協議がなされました。「表の見方や算数用語の活用ができており、既習がよく定着していた」「対話と板書で子どもをつなげていこうとする指導者の姿勢が伝わった」と、どの子どもが学習対象に主体的に働きかけられるように、本時まで身に付けた見方・考え方を引き出し、思いや気付きをていねいに取り上げていく指導者の姿が評価されました。



より数学らしい追究ができる時間に

本時を関数指導の基礎の時間として捉えた場合、表で見えた関係を式で表すことで一般化していく過程が重要である。その際、式に出てきた数が何を意味するのかを問い、式を読んでいく活動を取り入れることがポイントとなる。さらに適用問題として、関連性があり、発展的である問題を扱うことで、子どもがより数学らしい追究ができる時間となる。数学は、ベースにあるものは同じで、それがどんどん発展していくという学びを描いていく必要がある。一歩先を見据えた、 $+a$ の終末にしていくことが、追究し続ける子どもを育てることにつながる。

齊藤一弥
学力向上総括
専門官による
指導板書



授業者の声

1時間の中で「問い」が変容していき、常に子どもが問い続けることのできる授業を目指さないといけないと思いました。目の前の子どもが一生懸命考えていきいきしている授業を、共に楽しめる教師でありたいです。

共に授業をつくった学年団教員からの声

子どもが表と式をどう見るのかをもとに教材研究を行い、既習から未習へつなげる授業づくりをしていきたいと思いました。思考の流れを明確に示された齊藤先生の代案が大変勉強になりました。

参会者の声

子どもたちに、まず「問い」をもたせることが大切だと感じました。また、主体的に解決しようと思える場面設定が重要だとも思いました。数学らしい思考をさせる教材選びの大切さも分かりました。

【後免野田小 佐藤可奈絵教諭】

主体的・対話的で深い学びを実現する 算数・数学の授業づくりを目指して!!

